たくみ

TAKUMI

No.018

平成17年7月●初夏号

信州名匠会

（題字：故　池田三四郎　前名誉会長）

三渓園で重文指定10棟の古建築を体感

神奈川県の建築見学

平成16年度研修旅行「横浜・国立科学博物館の旅」

信州名匠会の平成16年度研修旅行は、11月6・7日、21名の参加により行われた。今回は横浜の三渓園、みなとみらい21の自由散策をはじめ、国立科学博物館など見学し、「ものづくりの心と技」について改めて考える機会となった。

三渓園にて

生糸貿易の雄・原三渓。その志、隆々といまも

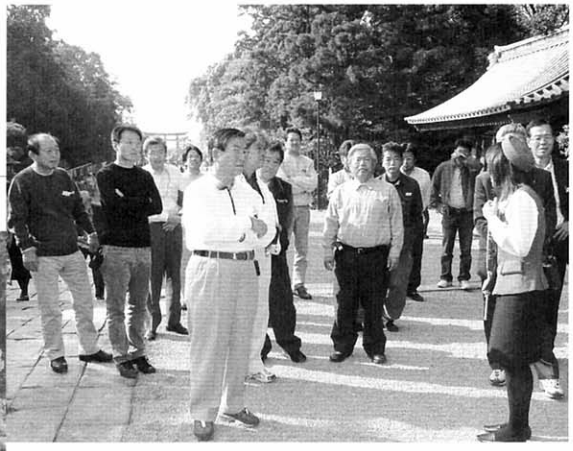
横浜市の東南にあり、自然を活かした広い日本庭園と歴史的建築物を見せる三渓園。園内の静けさは、高速道や工業施設が隣接していることを思わず忘れてしまうほどだ。

17万5千㎡もの面積がある園内には、明治から大正時代に生糸貿易で栄えた原三渓（さんけい・本名＝富太郎）が整備、移築した15棟の建築物があり、うち10棟は重要文化財に指定されている。

正門から左側にある外苑エリアには、三重塔や合掌造り住宅、茶室など6棟がある。旧矢箆原（やのはら）家住宅は、岐阜県白川郷にあった江戸時代の庄屋の家で、ダム建設の際に同所に移築された。屋根は茅葺きで、小屋組はくぎやかすがいを用いず、「ねそ」といわれるモミ、ナラ、クヌギなどの若木をねじ曲げてつくる縄などで、縛（しば）って組上げる。

昭和33年に一般公開するまで原家の私邸だった内苑エリアは、古建築と共に、池を中心とした庭の美しさも見ものだ。建物は、茶室のほか、三渓が隠居した数奇屋、徳川家の別荘など10棟。徳川家別荘の臨秋閣（りんしゅうかく）は、数奇屋風書院造り。屋内は、欄間に本物の雅楽器（笙など）を飾るといった独創的な意匠によって建築されている。また、京都二条城から移築された徳川家光・春日局ゆかりの聴秋閣（ちょうしゅうかく）は、屋根が2層になった楼閣建築。床に対し斜めに配した書院や、床板を四半敷きにするなど、あかぬけした建築となっている。

研修旅行スナップ



鶴ヶ丘八幡宮にて

研修旅行日程

11月6日（土）

長野市－三渓園（昼食・見学）－みなとみらい21自由散策（赤レンガ倉庫・横浜税関・横浜開港記念館・横浜美術館・みなとみらい技術館など）－みなとみらい・ぷかりさん橋－（シーバス）－山下公園－中華街・陽州飯店別館－ホテル（泊）

11月7日（日）

ホテル－鶴ヶ丘八幡宮（参拝）－（鎌倉車窓見学）－国立科学博物館・国立博物館・国立西洋美術館など－長野市

平成16年度研修旅行「神奈川県の建築見学　横浜・国立科学博物館の旅」参加者名簿（21名。氏名／所属）

鎌倉良収・㈱鎌倉木材店、鈴木隆・ルームデザインハウス、高梨廣男・㈲高梨建設、常田亀久夫・㈱菅平土建、堀誠・堀幸一・堀建築設計事務所、吉田雅彦・㈲スタジオスペースツー、井内猛男・㈱井内工務店、岩井秀樹・岩井工業㈱、久保敏幸・㈱さつき苑、五明良平・㈱五明、坂田守夫・坂田工業㈱、左右田光・㈱インテック左右田、高木茂実・松田産業㈱、鳥羽英夫・長野サウナ販売㈱、宮下恒夫・サンコー特機㈱、西澤重門・エヌ設計

【事務局】西澤嘉雄・市村友慎・㈱宮本設計、岸本貴志・㈱本久、神主英子・㈱新建新聞社

近江栄顧問、ご逝去

平成8年度総会で「建築事情と諸問題」をテーマに語られた近江氏（「たくみ」3号より）。

信州名匠会の顧問で日本大学名誉教授の近江栄氏が1月31日、ご逝去なされました（享年79歳）。本会の設立当初より、多大なご協力をいただいた先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

近江氏は、近代建築史を中心に、歴史に埋もれた建築家や建築にスポットを当てたほか、建築コンペの研究で知られる。第二国立劇場、東京都庁新庁舎、名古屋市新文化会館をはじめ、多くの設計コンペやプロポーザルの審査を手がけた。BCS賞などの審査活動にも尽力、1986（昭和61）年、87年に日本建築学界の副会長を務めた。「建築大好き人間を育てたい」と、大学を退いてからも建築への情熱はまったく衰えることはなかった。葬儀に際し、名匠会より御供花を贈らせていただきました。

合　掌

会員にきく
「たくみの仕事」Vol.11

美観・遮熱・断熱・防音・防犯・耐震・・・ガラスの技を磨く

渡辺硝子建材株式会社 代表取締役　渡辺昌祺（まさよし）氏（長野市若里）

profile●昭和12（1937）年9月30日（67歳）。趣味は夫婦旅行。四国や京都、秩父など各地の札所めぐりに出かけている。妻と息子の3人暮らし。娘さんは結婚され別で暮らす。

創業46年目を迎える渡辺硝子建材㈱。父とともに会社を立ち上げた渡辺昌祺氏が会社を引っ張る。

機械の技術屋だった父の影響で、建築工事のアルバイトを数多くこなすうち、ガラスの将来性を感じたのが、会社の始まりだ。「かつては希少価値だった」と感慨深げだ。

最近では、開放感をイメージする建築が増え、外壁材として使われることも多い。また、構造材にも登場している。製造技術も上がり、大きさや厚さは自由自在。ガラスを組み込んだパネルを積み上げれば、どんな高層建築でも、ガラスの外壁にできる。

渡辺氏は、高層になるほど負担になる風圧や建物の構造、面の大きさなどから、必要なガラスの厚さや種類を選定。数㎜単位の位置調整に配慮し、均一な面になるよう設置する。外装はもっとも人の目に触れるため、１枚のガラスのずれも許されない。面に映る影が美しい線を描くことが、仕事の良し悪しを見極めるポイントだ。

機能も多様になった。遮熱、断熱、防音性のほか、防犯や耐震性にも注目が集まる。特に、３月の福岡県西方沖地震でのガラス落下事故は「あんな事故が起こるなんて」と、改めて安全性について見つめ直すきっかけになったという。ガラスの設置基準を守っていれば、事故が起こることはまずないが、それでも気は抜けない。施工中のちょっとした傷も、ガラスが割れる原因になるからだ。

施工時には、元請会社や他の工種の関係者と密に連絡を取り合い、一番いいタイミングでガラスを搬入し、設置しなければならない。タイミングがずれれば、他の作業がしずらくなったり、熔接などの火の粉でガラス面を損傷させることにもつながってしまう。

メンテナンスの迅速な対応にも工夫がある。機能的なガラスほど、納入までに時間がかかる。建物によっては特殊なサイズの場合も多いため、顧客専用のガラスをストックする。

もっとも記憶に残っている物件は、構造的に前例がなかったエムウェーブ。事前に試作品を作って何度も実験を繰り返したが、木製の梁を柱から吊り下げる構造のため、全体のたわみが大きく、施工できるのか、相当なプレッシャーを感じた。息子さんの奮闘によって無事に完成。完成式典で、設計者がその苦労を讃えてくれたことが、本当に嬉しかったという。

長野市民病院やエムウェーブ、ホテル国際21タワー、信濃毎日新聞本社など、県内有数の物件を手掛けてきた。施工技術の高さや段取りの良さなど、元請や設計士、ユーザーからの信頼は厚い

会員にきく
「たくみの仕事」Vol.12

洗い屋。この道を究めたい。

株式会社ビホームテクノクリエート 代表取締役　竹内公夫氏（長野市青木島）

profile●昭和24（1949）年4月22日生まれ、56歳。中国桂林へ4泊5日の旅をしたばかり。海外旅行やゴルフが趣味。家族は妻と娘。１歳半の孫も。

長年の汚れで黒ずんだ建築材を洗浄し、新築時の美しさをよみがえらせる“洗い屋”こと㈱ビホームテクノクリエートの竹内公夫社長。造園業から一転、ダスキンのFC経営を始め、洗い屋の魅力にとりつかれた。

ダスキンを始めたきっかけは「創業者・鈴木清一氏が提唱する『祈りの経営』に共感を覚えたから」だったという。「他人に対しては　喜びのタネまきをすること」というその理念に、温厚さの裏に隠れる竹内氏の芯の強さが感じられる。

東京の造園会社から、長野市に移ってダスキンFCをスタート。ハウスクリーニングのサービスマスター事業と、白アリや害虫を駆除するターミニックス事業を主軸に展開。最近では、クリーニング機器などのレンタル事業も始めた。

歴史的な木造建築物が多く残る京都などでは、専門の洗い屋が古くから活躍するが、長野県や周辺県ではほとんどいない。竹内氏の場合、ダスキン事業の白木クリーニングがきっかけだ。飯山市の旧家川口家を解体移築した宮本忠長建築設計事務所のアトリエ・緑艸舎での仕事が、竹内氏を洗い屋の魅力に引き込んだ。

もともと古建築を見るのが好き。勉強を兼ねて京都に建物を見に行ったり、旅先で出会った建築材の研究は欠かさない

絵が描かれていた欄間に使った洗浄剤は、なんと大根おろし。「植物性で、木の肌に優しいのでは」と思い立ち、端材を使って、力の入れ具合や大根おろしの量などを何度も試行し、程よい具合を見つけ出した。黒くすすけていた欄間は見事によみがえり、木肌は光沢さえ見せた。宮本忠長先生もその仕上がりを絶賛した。

木の種類が変われば、洗浄剤や施し方もすべて異なる。アルカリと酸を使って洗浄する基本に基づき、木を傷めない植物性の洗浄剤を、果物や野菜、木の実などから発掘する。「雨漏りの跡にはレモン汁がよく効く。鉱物質の洗浄剤を使うと、木が荒れて光沢が出てこないので、注意しないと」と説明する。数奇屋や茶室など、繊細さが要求される建物を手掛けることが多い。刷毛を持つ手の力の入れ具合も、仕上がりを変える。「造園で培った木の知識が、役立っている」のだそうだ。

「将来は、文化財的な建築物も手掛けてみたい」と目標も話してくれた。

「祈りの経営　ダスキン経営理念」

一日一日と今日こそは　あなたの人生が（私の人生が）
新しく生まれ変わるチャンスです

自分に対しては　損と得とあらば損の道をゆくこと

他人に対しては　喜びのタネまきをすること

我も他も（わたしもあなたも）
物心共に豊かになり（物も心も豊かになり）
生きがいのある世の中にすること

合　掌

ありがとうございました

定例研修会●Report

（平成16年12月～平成17年4月）

平成16年度第5回研修会
「ホームページの基礎知識」

平成16年12月22日
講師：㈲スタジオスペースツー・信州名匠会員　吉田雅彦氏・㈱いとう　宮沢良一氏ほか4名
参加者：23名

「世界に一つのアドレスでホームページを作りましょう！」

画面を映写しながら進められた研修会風景

ホームページの基礎知識と題して、ホームページの開設に必要な手順などの研修を行った。日本でのインターネット利用率は88.1%。携帯電話での利用を含めほとんどの人が何らかの形でインターネットを利用している。会社組織にとって今やホームページは必要不可欠な存在。開設のメリットは、24時間365日休むことなく働くセールスマンがいると考えることができる。資料の送付等に関わるコストの削減も可能。

研修会では、インターネットの接続、メールアドレス、ホームページのドメイン（アドレスのhttp://につづく部分）、とくに独自ドメインの取得について学んでから、楽天などネットショッピングによる商品購入を実際にインターネットに接続し手順を再現した。価格の比較には便利なページもあり（価格.com「http://www.kakaku.com/」）、一目で一番安い店舗を見つけることも体験した。

最後に信州名匠会のホームページの準備状況について。名匠会の活動を全国に伝える有効な手段としてホームページの開設準備を進めていく方針が報告された。

平成16年度第6回研修会
【新年会】

平成17年1月22日
会場：三井ガーデンホテル長野「四川楼」
講師：(元)信州大学工学部教授・信州名匠会顧問　笹川　明氏
参加者：35名

「私の学生時代、それから」

新年会に先立ち、3月に信州大学工学部をご退官された本会顧問の笹川明教授にお話しをいただいた。笹川教授は開口一番、「私はいつも下を向いて気難しそうに見られますが、これはアリさんを踏まないようにしているのです」と話されると会場からワッと笑い声があがった。ご自身の生い立ちから今日に至るまでを大変楽しくお話しいただいた。

楽しく優しい笹川教授のお人柄がうかがわれたお話

笹川教授は小中学校と木曽の日義村で過ごされ、高校は松本の松本深志高校へ進学。横浜国立大学では建築学科で学ばれた。大学卒業を前に、あるゼネコンの先輩に会い、片方の耳が不自由なことを告げると、「それでは現場じゃ危険で採れない」と言われ、建設会社へは進まなかったことが人生の転機となり、横浜国立大学の修士課程へと進み、その後、教鞭の道を歩むこととなった。結婚を経て、信州大学の工学部に社会開発工学科が新設された際に教授として赴任し現在に至った。

最後に笹川教授は、昨年の中越地震に触れ、長野県でも糸魚川静岡構造線での地震が必ず起こること、そして「医者と同じ様に人の生命を預かるという意識を忘れずに建築に携わってほしい」と結ばれた。新年会でも和やかな雰囲気で会員のみなさんのお話が盛り上がった。

平成16年度第7回研修会
「建築工事における神事について～タブーとしきたり～」

平成17年3月2日
講師：弥栄神社宮司　斉藤　安彦氏（長野市上西之門）
参加者：22名

「地鎮祭は、いつ行いますか？」

斉藤宮司

日本人は「土地は神様からの借り物」の意識があり、建築の際その土地の精霊、施主の守り神などをお招きして行うのが地鎮祭、訓読みで「とこしずめのみまつり」。大安、仏滅、赤口、先勝、友引、先負に日柄を分けた六曜は、迷信に基づく民間伝承のたぐいであり、斉藤宮司は六曜とは関係無しに地鎮祭を執り行っている。

建築にはやはりタブーとされることがある。それが鬼門（北東）の水回り。これは住む人間のなかから生まれた日本古来の家相学であり、守らなくてはならない。

八百万の神様のなかで、地鎮祭でお招きする神様として、大地主大神（オオトコヌシノオオカミ、敷地の神様）、産土大神（ウブスナノオオカミ、氏神様）、彦狭知大神（ヒコサシリノオオカミ、職人の神様）などを紹介された。つづいて、修祓（しゅばつ）の儀、降神（こうしん）の儀から玉串奉奠（たまぐしほうてん）の儀を経て直会（なおら

い）の儀に至る地鎮祭の次第について、それぞれの意義を説明された。

斉藤宮司にお話をいただいた伊勢神宮の工作所の話には会員の関心が高く、作業風景をぜひ見てみたいとの声が聞かれた。斉藤宮司を紹介してくださった堀誠さん（本会理事）にこの場をお借りして御礼申し上げます。

意外と知らない、玉串礼拝の作法

平成16年度第8回研修会
「降旗副会長のお話～手と心～」

平成17年3月30日
講師：降旗建築設計事務所・信州名匠会副会長　降旗廣信氏
会場：かつ玄（松本市島内）
参加者：22名

「心がこめられることによって、価値が生まれる」

手と心について語る降旗氏

会場の「かつ玄」は降幡氏が再生を手掛けられたお店。降旗氏は、手と心について一緒に考えていただきたいとお話を始められた。

人とは“心”と“肉体”からできていて、これで“生きている”。そして物づくりの基本となる技術とは“手で行う作業”と“心”があってできている。そして心は技術を補うことができる。“手”と“心”とは直結しており、手は心によって動き、手でつくられた物には心が反映する。左官屋さんが怒りながら塗った壁には怒りが表れる。手作業が向う、収斂する方向とは「細やかに」「速く」「力強く」であり体力を競う競技に例えるならば、全力投球し、記録を高める。そしてそこには個性が生まれる。

物をつくる際に人によって器用（上手）不器用（下手）がある。そこには“手”が入る。不器用な手を心で補い良い物、良い仕事が残せることもある。

機械の発達が人の手仕事を軽視し、その手仕事の中にある心を軽視している。機械仕事と手仕事との違いは心が入っているか、否かにある。人間の心が一つ一つの製品に働き、感情の裏づけが手作業にはある。

降旗氏の問いかけに自問しながら聴く参加者

物の良否の判断基準「長持するか」。長持ちするのは、丈夫であるということと同時に、使っていて飽きがこない物という意味。手から心がこめられる事によって、価値が生まれ、飽きずに丈夫で長持ちする物をつくることができる。

心を映す仕事にするためには誠意をもって行うことが大切。人が生活する住宅において、人の心が通う手仕事であってこそ住む人に勇気や希望を与えることができると降幡氏。

民家の再生が増えているのは、民家にはそれをつくった施主が子孫の幸福な暮らしを願った心が込められているからではないか。

最後に降旗氏は、1職業（手仕事・機械仕事・販売・営業・管理）、2経験年数、3今現在自分は、人生の最終目標の何パーセントに至っているか、4心と技術の関係（技術が心を補っているか）心？%・体？%、5心のない仕事が多くなったことへの感想、と参加者にアンケート形式で問われた。みなさん、いかがですか？

平成16年度第9回研修会
「陶芸教室」

平成17年4月23日
講師：雪しろ窯主宰・群馬創造学園大学教授・本会理事
村越久子氏
会場：雪しろ釜（武石村）参加者：17名

「春の陽射しのなかで」

焼き上がりが楽しみ

村越氏は、昨春開学した創造学園大学の陶芸コース教授として、平日は高崎市で過ごすご多用な毎日を過ごされている。毎年春、村越氏のご厚意により、恒例になった陶芸制作。村越氏のお心のこもった昼食をいただいたあと、それぞれが持ちよった構想をもとに、皿や花瓶、徳利などの作品を仕上げていった。早い人は1時間ほどで形を作り上げたが、2時間ほどかけてじっくりと完成させた人、粘土にヘラを使って模様をつけた人もいた。隣の人の作品をちらちらと見つつ、黙々と取り組む参加者を、村越さんとスタッフのみなさんが、指導に当たってくださった。

焼き上がった作品は7月の総会で展示し、優秀作品には記念品が贈呈される。

参加者みんなに丁寧にご指導くださった村越氏（中央）

会員の動向（平成16年11月から平成17年5月）

【入会】なし
【退会】（氏名・会社名・住所・敬称略）
賛助会員　㈱玉井工務店　担当：玉井　章夫
〒381-2231 長野市川中島町四ッ屋133-1
【担当者変更】㈱角藤　北野　喜久　→　風間　洋二
〒380－0811 長野市東鶴賀60

●平成17年度通常総会開催のおしらせ

○ 日時／平成17年7月7日（木）
受付開始：15時30分　開会：16時
講演会　講師、演題：未定
懇親会：18時30分～
○ 会場／メルパルクNAGANO3F（長野駅より徒歩2分）
※ 親睦ゴルフ大会は未定です。

たくみ No.018
［信州名匠会ニュース］
発行日：平成17年7月6日
発行者：信州名匠会　会長　宮本忠長
編集者：信州名匠会事務局
制作協力：文屋、（株）新建新聞社
連絡先：（株）宮本忠長建築設計事務所
事務局：西澤嘉雄・市村友慎・岸本貴志・木下豊・神主英子
〒381-0012 長野市柳原1875-1 TEL：026-241-5510 FAX：026-243-0187